

<ひとこと> 嫁が作る夏カレー。鉄鍋で大量に作ります。今日で三日目の熟カレーです。

平成22年度第1回保健所精神保健福祉連絡会

今年度は予定では1回の連絡協議会が開催されました。議事は:

- ① 保健所の21年度の報告と22年度の事業計画
- ② 各機関からの現状報告
- ③ 今後取り組むべき地域の課題

①では21年度は、職員の訪問件数が192件から409件と急激な増加をしていること、医療保護入院等も増加傾向、出前講座も増加しているなどの報告がありました。

②では医療機関からは認知症への対応が増加していること、重症化しているケースも多く入院待ちの増加や退院後の行き先がないなどが深刻であること、精神障害者も地域移行するための受け皿がないこと、家族会からは引きこもりの問題が課題でACT(地域包括ケアシステム)のようなシステムがお金をあまりかけずにできるとよいなど。

地域包括支援センター会議からは、認知症のご近所トラブルでは、地域から出て行ってほしいという要望が強いこと、片方が認知症になった夫婦では離婚話が出るケースが増えているなど、家族も地域も互助力や自助力が弱体化しているなどの報告がありました。では、取り組むべき地域の課題とは? 予防という観点でこどもから高齢者まで何が必要か、早期発見から早期診断、早期治療には何が必要か? 地域移行と地域定着には何が必要か? など、課題は山積しています。

地域包括ケア研究会

この計画は、「平成21年老人保健健康増進推進事業による平成24年度から始まる第5期介護保険事業計画で、2025年に実現すべき地域包括ケアのあり方とそれを支える「サービスタ」について具体的な姿を描いているものです。

☆2025年の地域ケアシステムの姿

《サービスタ提供の体制のあり方》
 地域住民は住居の種別にかかわらず、おおむね30分以内に生活上の安全・安心・健康を維持するための多様なサービスタを24時間365日を通じて利用しながら、病院等に依存せずに住み慣れた地域での生活を継続することが可能になっている。

- 自立支援型ケアマネジメントの徹底。
- 在宅介護サービスの充実— 保護型介護から自立支援型介護の
- 24時間365日のサービス提供。
- 地域包括支援センターの機能強化— 地域のニーズを吸い上げ住民主体の活動に結びつけるなど包括的なケアマネジメントや介護支援専門員への指導、評価など。
- 医療との連携— 24時間365日の巡回型介護のサービスタが看護と介護が連携し、在宅の看取りを行う、リハビリテーションでは専門職の直

- 提供だけでなく、ヘルパーへの指導、在宅療養支援診療所等の夜間を含めて一次医療を担う体制
- 高齢者住宅の整備確保— 高齢期において住み続けることが可能な住宅が多様に提供されていること、従来の特別養護老人ホームなども外付けのサービスタが導入される集合住宅という位置づけで地域にも開放されていること。
- 認知症ケア— 早期発見や地域ケアパスを作成し地域内の専門職での共有。



これらを実現するためには、人材の確保、財源の確保が大きな課題となります。特に持続可能な介護保険制度とするためには財源構成の見直し、被保険者の範囲の見直し、そして保険給付の重点化が必要と結ばれていきます。つまり対象者は増加することが現実な一方で、保険料負担をだれがどこまで担うのか? どこまで何を提供するのがいいか?

これは介護保険から出発の論議ですが、被保険者の範囲の見直しは実質的には障害者も抱合する問題です。負担の問題、サービスタの理念と中身の問題を考えると議論は簡単ではなさそう。しかし、この報告を他人事(高齢者の問題だけ)としておかない論議が必要ではないでしょうか。



柏市という地域の特徴を診断し、何が強みで(何かあるはず?) 何が弱みかを見極めながら、検討することが必要です。

あいネットの相談の中で感じることは多々あり、何とかならないのかなあと考えるのですが、例えば自立支援協議会で、課題をきちんと抽出し考える場を生かすことが必要だと感じました。

知っておきたい精神保健の制度 ~地域での事例を通して~

皆さんはこのエピソードを読んで、どんな思いを抱きますか?
 「精神症状が活発であるが、医療拒否をしている高齢者。精神病院の嘱託医と保健師で自宅へ行き、入院をするよう説得したが本人は拒否した。そのため、兄弟が本人を抱えて精神病院へ連れて行き、本人を入院させた。すると、精神症状は落ち着いたが、本人は認知症になってしまった。家族は『本当にこれで良かったのか』...と複雑な思いになった。」

平成22年7月13日(火)在宅介護支援センター・地域包括支援センター職員研修会「知っておきたい精神保健の制度」地域での事例を通して」と題して保健福祉士の講演がありました。

講演の内容は、通報について、強制入院の制度について、自傷・他害の範囲について、医療が福祉か、最後は事例を通しての検討会となりました。

上述した例も講演内で出されたエピソードです。家族・本人の医療拒否への関連要素として「正確な知識の不足、経済的困窮、問題意識の希薄さ、レベルの低い医療への不信」等があげられるそうです。本人に精神科への入院の意志がない場合、厳密な法的手続きなくして本人に治療を強要

する事は出来ません。また、治療を強要したとしても「絶対によくなる」という保証もありません。

強制医療を勧めるにあたり、「対象者本人が、本当は何に困っているのか」「自分自身の胸に聞いてみる必要がある」との事でした。研修会を通して「誰が、何に困っているか、何故、医療が必要であるか」をきちんと考える必要があるかと思われました。強制入院により精神症状を抑える事がその人にとつての最善の道とは限らず、もしかしたら環境や家族の対応等、本人以外の他の問題を改善する事で本人の症状に改善が見られるかもしれません。医療が必要なのか、福祉が必要なのか、家族の協力が重要なのか、何が重要なのか、広い視点で問題を見

障がい児子育て支援サークル 虹色くらぶ



連絡・問い合わせ先

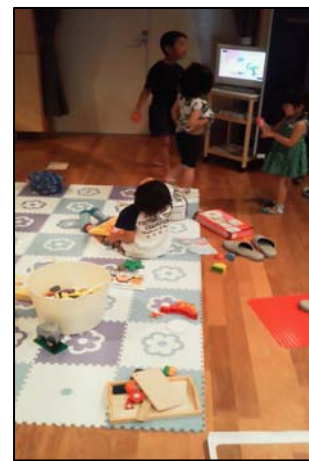
メール：happy_rainbow@live.jp

外川 恵理 (そとかわ えり)

電話：090-9388-6116

中村 愛 (なかむら あい)

電話：090-8984-7357



一人ひとり違う色でも みんなで集まるととても美しい「虹」のようになります
私たちは 子どもたちによって彩られた虹の架け橋で 出会い結ばれているように思います
「子どもたちの虹がいつまでも美しい色で輝いていられるように」
「私たちが子どもたちを見守りながら一緒に輝いていられるように」
そんな願いが「虹色くらぶ」の名前には込められています (虹色くらぶパンフレットより抜粋)

ママたちが語らい、笑顔が溢れる場所があります。

「虹色くらぶ」は障がいや病気のあるお子さんを育てているママたちの子育てサロン。月に2回、不定期で集まり、おしゃべりや情報交換をおこなっています。

参加されている方は、未就学児～小学校までのお子さんを育てるママが中心です。未就学のときに情報が入ってこないの、この場を活用しているというママも。制度について勉強会をしたり、子育ての悩みを話したり。ママたちの表情を見ていると『自分だけが・・・』『誰に話したら・・・』という子育ての孤独や不安が、このサロンに来ると和らいでいるのを感じます。

また、子どもが遊べるスペースやおもちゃも豊富。子どもと一緒に安心して参加できます。



虹色くらぶに
パパは参加できるの？という質問をし忘れてしまいました。子育てパパの皆さま、申し訳ありません。



ご存知ですか？



こどもルーム入所児童募集 ～特別支援学校の生徒も対象～

両親が共に働いているなどの理由で、昼間帰宅しても保育する人がいない、原則として小学校 1～3 年生の児童の保育を行い、児童の健全な育成を図るための施設が学童保育所(こどもルーム)です。現在市内には、公立の「こどもルーム」が 37 カ所に設置されています(柏市役所ホームページより)

平成 22 年 7 月より、特別支援学校に通っている生徒も、こどもルームの申込みが可能になりました。ルームへの送り迎えや、お子さんの状況など、受け入れには条件がありますが、利用できる資源が増えることは大歓迎です。

入所の方法・手続きは、こどもルーム担当へ問合せ下さい。
(児童家庭部児童育成課 こどもルーム担当室 04-7167-1294)

おしらせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707FAX:04-7165-8709)まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
障がいのある子どもの福祉制度ってどうなるの? ～地域で暮らし続けるために～ 講師:又村 あおい氏 (福)全国手をつなぐ育成会機関紙「手をつなぐ」編集委員	8/29(日) 10:00 ～15:00	けやきプラザ 7 階 研修室 (JR我孫子駅徒歩 1 分)	300 円 (非会員 500 円)	必要 (定員 80 名)	問合せ・申込み先: 我孫子市手をつなぐ育成会 事務局 TEL:080-6745-8609(吉田) FAX:04-7187-5173 虹色くらぶ TEL:090-9388-6116(外川) FAX:0297-73-8146 メール: happy_rainbow@live.jp
「障がいのある人達の性と生」 ～人生を大きく支える性と生を知り、性と生の主人公として障がいのある人を理解し、具体的な支援を学ぶ～ 講師:永野 裕子さん 季刊「SEXUALITY」編集員 「人間と性」教育研究協議会障害児サークル代表	9/5(日) 13:30 ～16:00	たんぼぼセンター 「たんぼぼホール」 (JR 常磐線北柏駅より徒歩 15 分)	無料	必要	主催:きょうされん千葉支部 NPO 法人あじさいの会 NPO 法人あじさいの会 TEL:04-7199-2564
心の健康 ボランティア塾 心の健康ボランティア塾は子どもから高齢者に至るまでの心の健康について学び、病気や障害に対する医療と福祉の連携、相談のあり方、またソーシャルワークや精神科リハビリテーションの方法を学習します。	(学習会) 毎週木曜日に行い、半年で前期:20 回、後期:20 回を行います。学習期間は原則 1 年を 1 サイクルとします。受講料はありません。 (開催場所) 柏市勤労会館 (参加資格) 学歴・年齢・性別を問いません。面談により入塾の可否を決定します。				社会福祉法人よつば 事務局 TEL/FAX:04-7199-7921 ①お電話でお問合せください。 ②申込書(あいネットにあります)をよつば事務局に送付。福祉ショップ「かるのこ」でも受け付けています。